



平成29年3月に閉校した東郷町の旧山田小学校に、遊休公共施設等利活用促進条例を活用して、中小企業地域振興事業協同組合(鹿児島市)が整備を進めていた外国人技能実習生研修施設「ベーシックトレーニングセンター ヤマダ」が完成し、実習生の受け入れが始まりました。

閉校した小学校が再び学び舎として活用され、実習生の明るい声が響くようになったほか、地区からの雇用や実習生と地区住民との交流も開始。山田地区が国際交流という新たな風に乗れ、さらなる地域の活性化につながることを期待されます。

Topic 12

旧山田小学校に外国人技能実習生研修施設が完成



本土地域4支所の業務見直しを行い、支所での内部事務や支所地域の災害や緊急時の対応を除く現場対応などを本庁業務へ移管。各支所の職員数は半数程度となりました。併せて、3出張所を廃止しました。

Topic 11

本土地域4支所の業務を見直し、3出張所廃止

市消防局で、(株)サンテックから寄贈を受けた無人航空機(ドローン)の運用を開始。搭載したカメラは画像転送が可能で、災害対策本部などでも災害状況を確認でき、夜間でも使用できます。今後、大規模な災害や行方不明者捜索、イベント撮影など、さまざまな場面で活用します。



また、愛知県一宮市在住の伊藤二作氏・スミ子氏から高規格救急車の購入費用の寄附を受けました。妻のスミ子氏は樋脇町市比野出身で、ふるさとへ恩返ししたいとの思いから寄附されました。

Topic 06

消防力充実へドローン運用開始、高規格救急車購入費用寄附



今年度から、全ての世帯について保育料算定に係る所得制限・年齢制限を撤廃し、「第2子半額」「第3子以降無料」を実施しました。これにより、4月1日現在、在園している児童の約24%の保育料が軽減されました。

また、私立幼稚園・認定こども園(1号認定)の保育料についても、市立幼稚園の保育料と同額とし、子育て世帯の経済的負担を軽減しました。

Topic 05

幼児教育無償化の一部を先行実施



「来訪神：仮面・仮装の神々」とは、仮面・仮装の異形の姿をした者が、来訪神として正月などに家々を訪れ、新たな年を迎えるに当たって怠け者を戒めたり、人々に幸や福をもたらしたりする行事です。「甕島のトシドン」は、既に平成21年にユネスコ無形文化遺産に登録されていましたが、今回、「男鹿のナマハゲ」などの国指定重要無形民俗文化財となっている来訪神行事10件をグループ化し、拡張提案したものが登録されました。

Topic 14

「甕島のトシドン」を含む「来訪神・仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録



10月13日、南九州西回り自動車道阿久根インターチェンジから薩摩川内水引インターチェンジ間(阿久根川内道路)の着工式が行われました。

南九州西回り自動車道の早期完成による物流、観光、救急医療など、さまざまな分野での効果が期待されます。

また、5月には川内港の長期的な将来構想などを検討するため、「第1回川内港長期構想検討委員会」が開催され、国・県などと共に約30年ぶりとなる川内港港湾計画改訂に向けた検討が始まりました。

Topic 13

社会基盤充実へ南九州西回り自動車道「阿久根川内道路」工事着手、川内港港湾計画改訂に向けた検討開始



平成28年7月、市と熊本大学などの共同調査で、上甕島の姫浦層群(約7000万年前の中生代白亜紀後期の地層)を調査中、骨の化石が発見され、調査の結果、ハドロサウルス類(鳥脚類)の大腿骨であることが分かりました。

今回見つかった化石は、日本に生息していた最後の恐竜の一つと考えられます。

Topic 08

上甕島からハドロサウルス類の大腿骨化石を発見



6月23日、東京都で「日本気象予報士会会員表彰授与式」が行われ、川内川あらしプロジェクトが気象に関する顕著な活動や功績を残した個人や団体に贈られる「石井賞」を受賞されました。

川内川あらしプロジェクトは、平成29年2月に気象予報士の今村聡氏が立ち上げ、以降、水引地区の住民らと共に、秋から春にかけて朝霧が川内川を流れ下り、強風とともに海へと流れ出る自然現象「川内川あらし」のPR活動をさまざまなイベントなどで行っています。

Topic 07

川内川あらしプロジェクト石井賞受賞



10月31日、中国常熟市と交流を続ける本市が「2020年東京オリンピック・パラリンピックホストタウン」に登録されました。本市で強化合宿を行ったバレーボールの全日本男子やブラジル女子、樋脇町出身の大田昭子選手も選出され、アジア競技大会で優勝したホッケー女子日本代表チームなど、本市ゆかりのチームや選手のオリンピックでの活躍が期待されます。

また、燃ゆる感動かごしま国体やインターハイに向けた準備も着々と進んでいます。

Topic 16

東京オリンピックまであと2年! 2019年インターハイ・2020年かごしま国体の準備も着々



さまざまなイベント開催が可能で多目的ホールや会議室、子育て・ボランティア活動などのサポート施設を備える川内駅コンベンションセンターの起工式が、12月19日に川内駅東口市有地で行われ、市や施工業者などが一同に会して、工事の安全と無事を祈願しました。

新たなにぎわい創出と交流人口拡大による活力あるまちづくりを目指し、2020年完成に向けて本格的な建設工事がいよいよ始まります。

Topic 15

川内駅コンベンションセンターが工事に着手



昭和43年7月25日、樋脇町市比野で住宅44棟が焼失した「市比野大火」から50年を迎えました。

甚大な被害をもたらしたこの大火の教訓を風化させることなく、次世代に引き継ごうと、7月21日に市比野地区コミュニティ協議会主催による防火式典が執り行われ、防火への誓いを新たにしました。

Topic 10

市比野大火50年防火式典



平成25年に企業間や産学官の交流、市内企業や市経済の発展、雇用対策促進を目的に設立した薩摩川内市企業連携協議会が、事業協同組合として法人化されました。地域経済へのさらなる貢献が期待されます。また、3月と7月には会員企業の事業内容や製品のPRを通じ、地元就職率向上につなげようと「わくわくお仕事博覧会」を開催。地元企業の魅力を発信しました。

一方、甕島では、地域が一体となり雇用・移住などの課題を解決するため、UIJターン人材の確保、移住の環境づくりを促進する「雇用・移住対策協議会」が設立されました。

Topic 09

超異例! 異業種約130社で薩摩川内市企業連携協議会が事業協同組合化、甕島で雇用・移住対策協議会が設立